

田中研新聞

第137号

2024年
9月26日発行

甲南大学知能情報学部田中研究室 ほぼ毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集責任 田中雅博

芦川君、受賞おめでとう！

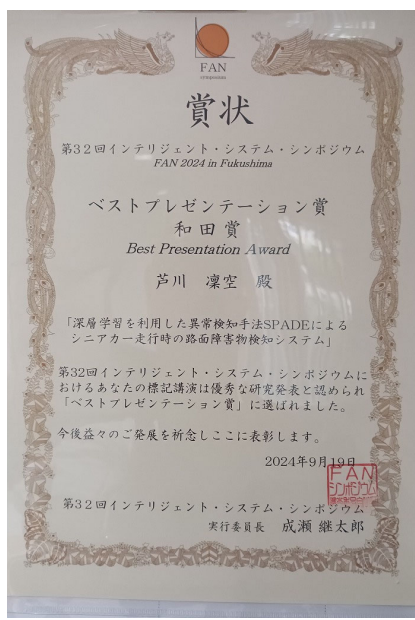
インテリジェント・システム・シンポジウムで、ベストプレゼンテーション賞受賞

9月19日



会津大学で行われたFAN 2024に参加しました。発表自体はある程度上手にできたと思います。参加して良かった点として、質疑の部分ではデータの説明の補足や実験に追加できる条件などの新しい発見があったことが良かったです。また、先生に結果を説明するまでの説明が長いと指摘を受け、自分でも実際そうだと気付いたので今後の発表ではその部分を改善

喜びの言葉 (芦川凜空)



したいです。

シンポジウム概要

9月18日〜19日、会津大学で開催された知能システムシンポジウム(FAN 2024)に、田中教授とM2の芦川凜空君が参加し、それぞれ論文を口頭発表しました。

初日は「深層学習」のセッションで芦川君の発表

「深層学習を利用した異常検知手法SPADEによるシニアカー走行時の路面障害物検知システム」があり、芦川君は、堂々と、わかりやすく発表しておかげで、ベストプレゼンテーション賞を受賞しました。特別講演では、室蘭工業大学の副学長である中国人の董先生の「災害対応を変える通信

技術とその未来」という特別講演を聞いたりました。二日目は計算知能の理論と応用のセッションを聞き、そのあとのセッション「ロボティクスとAI応用」では、田中教授が、シニアカーにおける2次元ライダの機能に関する講演を行いました。同じセッションでは、比較的類似の問題に対する講演が多く、非常に興味深く参加することができました。発表後の質疑を聞く限りでは、田中教授の発表も参加者に好評だったようです。

二日目の最後に表彰式があり、そこで芦川君の受賞が発表されましたが、受賞することは考えておらず、二人とも授賞式には参加していなかったもので、後日、賞状を郵送してもらい、26日に落手しました。

新潟と郡山の間に位置し、我々は、伊丹から福島空港に飛びました。福島空港から会津若松には直通バスがなく、いったん郡山まで行き、そこで会津若松行きの乗り換えです。まさに1日かかりという感じ

鶴ヶ城は、シンポジウムの初日、まだ城の中には入れない時間に訪れ、城の周りをしっかりと歩きまわりました。実は、鳥の写真を撮りたくて、望遠レンズのついたカメラを持って行ったのですが、残念ながらほとんど鳥を見ることはできませんでした。お城からは会津大学の時間を入念に調べ、バス

赤い変わってから突っ込む車が多いですが、会津で驚いたのは、信号が黄色になるとすぐにブレーキを踏んで、きちんと交通ルールが守られているという点です。最後、空港バスに乗って、ずいぶん遅いなと思ってスピードメータを見ると、きつちり50kmで走っています。道路は、標識がない、60km制限の道路です。追い越していく自家用車もありません。日ごろ、

せかせかした運転をする車ばかりを神戸や岡山で見ている私は、新鮮であると同時に、いささか、いらいらしました(反省！)。

出張中、唯一持参の望遠レンズが生きる場面がありました。それが左の富士山で、福島↓伊丹のフライトで私が撮影したものです。思っていたよりも近くに見えました。Adobe Lightroomを使って全体の明度や色合いなどは調整しているものの、私としては会心のようです。ChatGPTがどうか、聞いてみましょう。

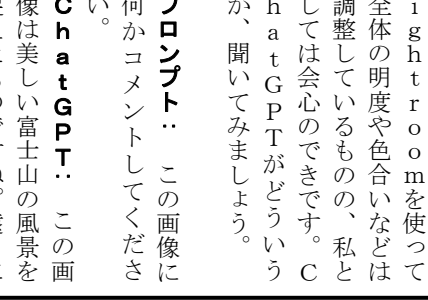
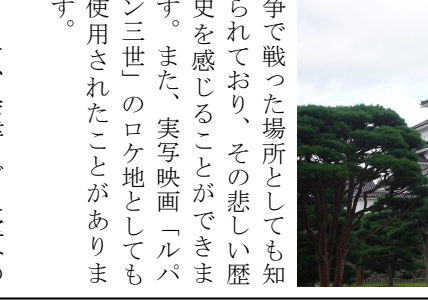
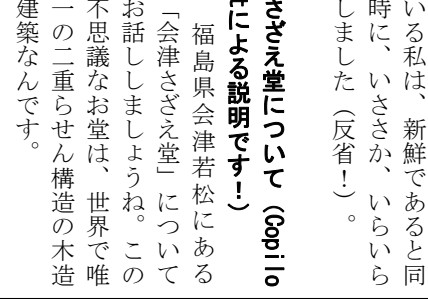
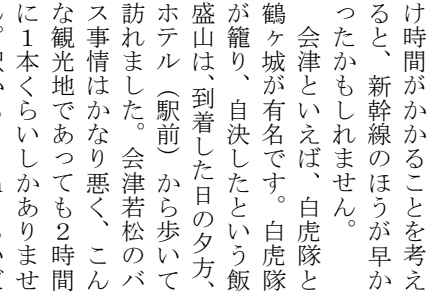
何を隠そう(いや、隠してはいませんが)、私は長州人ですが、往年の恨みを果たされないよう(?)、長州人であるとは言いませんでした。飯盛山は、動く歩道がついており、楽に山に登れ、さざえ堂(写真)、イタリヤ記念碑、戸ノ口堰洞穴などを見、白虎隊十九士の墓では手を合わせました。ここから、鶴ヶ城がよく見えます。

時間過ぎててもやっつてこず、バス停を間違えたのではないかと思いますが、結局わからず、とりあえず駅までタクシーで行き、そのあとバスに乗ろうと思つて、駅まで行きました。そこで、バスターミナルに行くこと、なんと出たばかりで次のバスまで1時間ほどあります。結局大学までも再度タクシーに乗ることになりました。

正式名称は「円通三匠堂(えんつうさんそうどう)」といい、その特異な形状から「さざえ堂」とも呼ばれています。高さ16.5メートルで六角三層のお堂であり、サザエの巻き貝に似た形をしています。この二重螺旋のスロープを辿ること

さて、会津さざえ堂へのアクセス方法ですが、公共交通機関を利用する場合は会津若松駅からバス「ハイカラさん」または「あかべえ」に乗り、「飯盛山下」から徒歩5分まで到着できます。お車を利用する場合は、磐越自動車道・会津若松ICから約15分です。

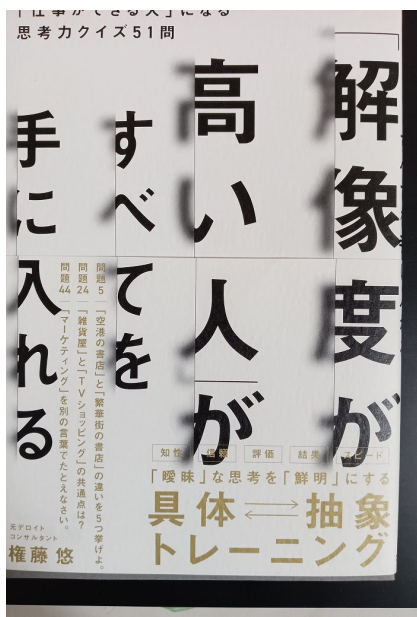
プロンプト… この画像に何かコメントしてください。ChatGPT… この画像は美しい富士山の風景を捉えたものですね。遠くにそびえる富士山と、その前景に広がる山々が、青いトーンで統一されていて非常に幻想的な雰囲気を感じます。雲が少し浮かんでおり、空の広がりや山々の重なりが、自然の雄大さを引き立てています。



最近読んだ本をもとに いろいろ考えました

解像度を上げて

仕事ができる人になろう!



行きました。2は、どうもコアとなるポイントのことを抽象化と言っているように思われます。

この本は、トレーニングとして、ビジネスの世界の具体的な課題を多数取り上げ、それによって「解像度を上げる」訓練をするというストーリーです。私自身は、自分の話の中で、具体例を挙げながらわかりやすく話をするのが、仕事ができる人になる秘訣と勝手に理解し、大いに参考になったと感じています。

解像度という画像の言葉が使われています。この言葉はたいいての読者はお分かりかと思いますが、ここでは物事の細部が見えているということを意味します。その逆は、明確でない、ふわっとしていてあいまい、説得力がないということになります。この本のタイトルは、私にとって目からうろこでした。



1は非常にわかりやすく、私も、その点で合点が。それぞれの特徴は、1. 具体的思考力2. 抽象化思考力3. 具体と抽象の思考力を鍛えることにより手に入れられるとあります。

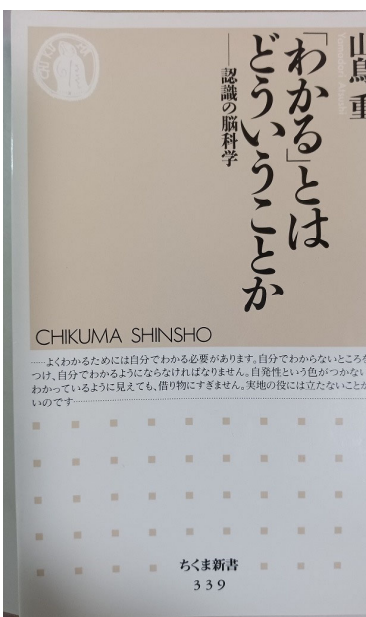
自分の発しているメッセージは理解されているのか?

もう一度点検したいものです

自分の書架を整理して、この本を処分するかどうか悩み、とあえず読んでいます。一見自明のような文章でも、様々な情報が盛り込ま

れています。相手との共通基盤がないと、理解はされないことに、読んでみて気づきました。

私も、出かけた妻から「昼、これの好きなほうを食べておいて」と渡された2つのレトルトカレーの印刷文字を見ると、「辛口」と「中辛」とあります。私は辛いほうを食べたいのですが、「はて?どちらが辛いのか?」。わからなかつたので、Copilotに聞いて、「辛口」のほうが



「よくわかるためには自分でわかる必要があります。自分でわからないところを見つければ、自分でわかるようにならなければなりません。自覚性という色がつかないと、わかっているように見えても、借り物にすぎません。究極的には立派なことに多いのです」

新学期

始まりました

私の甲南大学における常勤教員として最後の学期が始まりました。以下の科目などがあります。それぞれについて、私の考えと様子をお知らせします。

月曜日4限(5回担当)・・・コース演習(知能ロボット)

今年度から始まった、2年生向けの科目です。梅谷先生、和田先生と私の共同担当で、5回ずつ分担任して担当します。私のテーマは、OpenCVによる画像プログラミング(Pythonベース)と、色認識です。私自身は今年度1年限りの担当なので、あまり新規のことを始めず、今まで実験及び演習で行ってきたことの一部をここでやることにしました。特に、顔を取り上げて、顔の色はどんな分布なのか、調べてみることにします。

今年度は、情報英語は1限目としました。後期の1限目はなかなか出づらいうが、コース演習が新しく始まって、時間割がなかなか組みにくくなっていったので、この科目を動かすことにしました。ということで、履修する人、寒くなつてくると大変ではありますが、頑張つて出てきてくださいます。内容は昨年の経験を踏まえ、若干の修正を行いました。ほぼ例年と同じです。

火曜日3、4限・・・卒業研究及び演習

いわゆるゼミです。先日、後期の第1回目を行いました。皆さん元気に出てきてくれました。このまま、

実際に解きます。 ***** 田中教授の最近うれしかったこと(1)

5月に投稿していたジャーナル論文が採録決定しました。査読では、非常に厳しいコメントが返ってきていて、それに必死になって答えた結果であると自負しています。何事も誠実に、今回改めて感じたことであ

うれしかったこと(2)

9月25日、当研究室で課程博士を取得した、宝塚医療大学の西智也氏とプライベントに飲んで、彼が教授になったことを知ったことです。私のもので課程博士を取った人は過去に2名ありますが、1人目は高松短大の森靖之氏で、彼はかなり前に教授になり、学内で高い信頼を得ているように、常に忙しそうですが、頑張っています。大西氏も教授になり、大変うれしく

予定

9月17日から2か月間大阪グランフロントのナレッジキャピタルThe Labにおいて、田中教授作成の入場者カウンタを展示・実演中

11月2日、3日 電気関係北海道支部講演会に参加、発表(田中)

11月22日 毎年実施している、甲南大学・鹿児島大学合同 ロボット・コンピュータビジョン研究会を甲南大学で実施(主催)

12月18日、20日 盛岡で開催されるSICE-SI講演会に参加(田中、芦川、芦川君が発表)

編集後記

巻頭言を書きました

日経BP社からこのほど出版された、プログラムを読む技術(岩松洋著)の巻頭言の執筆を依頼され、ゲラを見ながら書きました。

この著者は私の前任校(岡山大学)での教え子で、それが縁で依頼されたものです。本の一部になっています。



ので、ここで内容を披露してよいかどうか、自身でもわからないのでここには書きませんが、プログラムは「書く」だけでなく、「読む」ことが求められます。それを知っている著者は、プログラムを書くことを覚えてきたばかりの初心者(ちょうど、みなさんなどが対象者です)に、読み方の手ほどきを例を使って教えています。皆さんにも、是非身に付けてほしいと思います。出てくる言語は、Python、C、VBです。

思いました。11月の鹿児島大学との共同研究会にも何とか来たいと言ってくれました。